

# 埋文

## とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2023.12.27

VOL.

165



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）  
《垂飾状骨角製品》

「垂飾状骨角製品」は鳥獣魚類の骨角の一部をそのまま、あるいは一部を切断して穿孔、溝などを施し、アクセサリーとしているものです。動物の持つ強大な力・鋭さなどを得たいという意図で製作されたり、強さをもたない動物骨を使っている場合は、その動物に対するなんらかの思いがあったと考えられます。写真のものは、すべてニホンジカの胸骨や角で作られています。シカの大きさや、しなやかな体つき、俊敏な動きに憧れていたのでしょうか、それともシカ肉おいしかったな、また食べたいなと思って作ったものかもしれません。

とっておき埋文講座① ● 特別展「黄泉つ国から - 富山の古墳時代 -」

② ● 邪馬台国時代から古墳時代へ - 激動の3世紀の畿内と北陸 -

Center Flash ● とやま埋文友の会

● 考古学少年団

古写真発掘！ ● 桜谷古墳群 高岡市太田

富山県埋蔵文化財センター

# 特別展「黄泉つ国から -富山の古墳時代-」

とっておき埋文講座①

## いざ“黄泉つ国”へ!

死者の国である「黄泉つ国」。古墳時代の人々にとって、古墳とは死者を埋葬する墓であるとともに、黄泉つ国への入口でもありました。本展示の入口では、黄泉つ国と埋葬儀式の様子を再現してみました。古墳時代の衣装を着たマネキンが荘厳な雰囲気醸し出しています。この部分の作成にあたり、博物館実習生8名の協力を得ました。



入口で黄泉つ国を案内する武人マネキン



埋葬儀式に参列する従者マネキン

## 古墳上の埋葬儀式

黄泉つ国へ向かう道の突き当りに、円墳のジオラマを配置しました。氷見市の加納南9号墳をモデルとして製作したもので、墳丘上では小さな人形達が悲しくも賑やかな埋葬儀式を行っています。発掘調査によ

て明らかとなった埋葬施設の遺物出土状況を基に、首長が亡くなった当時、このような儀式が行われたのかかもしれないと想像を膨らませて製作したものです。



円墳のジオラマと巫女マネキン



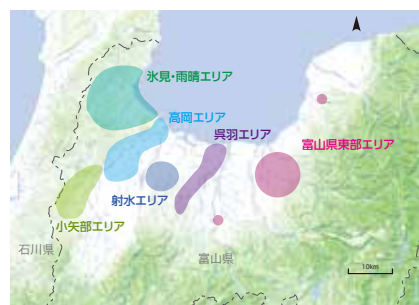
人形による埋葬儀式の復元

割竹形木棺に横たわる初老男性は亡き首長。棺の中には武器や馬具など数々の副葬品が納められています。傍らに置かれた三輪玉付き大刀や足元の掛甲は長年使い込んだ愛用品です。棺の周囲には祈りを捧げる巫女、儀式の道具をセットする従者、待ちきれずお酒を飲み始めてしまう次期首長の弟君とお酌をする継承順位低めの叔父上、という具合に、キャラクター設定した人形を配置しました。

## 富山県の古墳をエリア分け

富山県内には約1,000基の古墳が築られました。このうち代表的な古墳や良好な出土品のある古墳について、県内を6エリアに分けて展示紹介しています。

小矢部エリアは、県西部を流れる小矢部川中流域左岸を中心とし、陸



富山県の古墳分布を示すエリア図（地理院地図に加筆）

路で西から入ってきた古墳文化に真っ先に触れる最先端地域です。展示品は関野1号墳の焼成前穿孔のある土師器壺、関野2号墳の鉄製品・臼玉、若宮古墳の埴輪・鉄刀・三輪玉、谷内21号墳の黒漆塗革草摺・豎櫛・鉄鏃・矢柄等で、小矢部市教育委員会から借用しました。中でも黒漆塗革草摺は短甲と共に立てて納めたことを示す興味深い出土品です。また埴輪は県内ではふたつの古墳からしか出土がない珍しいものです。



小矢部エリアの展示

氷見・雨晴エリアは古墳の密集地です。能登半島に至る陸路も早くから通じており、水陸共に交通の要衝と言えます。古墳群は大河川の流域ごとに分布し、特に下流域の柳田布尾山古墳など大型古墳は富山湾と立山連峰を一望できる見晴らしの良い丘陵尾根上に築られました。展示品は阿尾島田A1号墳の鉄製品・玉類、イヨダノヤマ3号墳の短甲、朝日長

やま さくらだに  
山古墳の埴輪・杏葉・土器、桜谷  
古墳群の石釧・金環・金銅製方形板  
等の他、ジオラマのモデルとなった  
加納南9号墳の出土品があります。  
これらは当センター所蔵品の他、氷  
見市立博物館、高岡市教育委員会  
から借用したものです。



氷見・雨晴エリアの展示

高岡エリアは、県西部の西山丘陵  
とこれに連なる二上丘陵、伏木台地、  
そして弥生時代中期から中核的集落  
が形成された佐野台地からなる地域  
です。日本海に張り出した伏木台地  
先端にある国分山A墳の盤龍鏡は高  
岡市教育委員会からの借用品で市  
指定有形文化財です。西山丘陵の  
板屋谷内C6号墳の鉄剣、内行花文  
鏡、珠文鏡、勾玉や琥珀丸玉、ガ  
ラス玉等の玉類は、三種の神器と同  
様のセットが出土した県内唯一の事  
例です。



板屋谷内C6号墳出土品

射水エリアは谷が複雑に入り組む  
丘陵地です。古代以降に製鉄炉や  
炭焼窯、須恵器窯が操業を開始して

一大生産地となりますが、古墳時代  
には見晴らしの良い地点に円墳が築  
かれました。



射水エリアの展示

呉羽エリアは県中央部の南北に延  
びる呉羽丘陵とこれに連なる羽根丘  
陵を中心とします。呉羽丘陵南部か  
ら羽根丘陵にかけて四隅突出型墳  
丘墓が築かれるなど弥生時代から  
山陰地方との関係が深い地域です。  
県内最古の四隅突出型墳丘墓であ  
る富崎3号墓出土弥生土器、呉羽丘  
陵北部の番神山横穴墓群の金環等  
の展示品は富山市埋蔵文化財セン  
ターから借用しました。また県内最  
古の大型前方後方墳として知られる  
勅使塚古墳では、墳丘から赤く塗ら  
れた祭祀用の土師器が多く出土して  
います。



勅使塚古墳出土品

呉羽エリアより東の県東部エリア  
では、これまで大きな古墳は見つ  
かっていません。ここが西国から波  
及した古墳文化の東端だったのかも  
しれません。

また集落遺跡の紹介もあります。  
高岡市下老子笹川遺跡の鉄製鋤・鋤  
は、朝鮮半島伝来の新式の農耕具  
です。こうした鉄の道具が大規模な  
古墳造営を可能にしたのです。

## 古墳被葬者の姿に迫る

古墳の被葬者は一体どのような人  
物だったのでしょうか。弥生時代か  
らその地に住み支配してきた首長な  
のか、中央から派遣された役人なの  
か、朝鮮半島からやってきた渡来人  
なのか…。こうした疑問を解決する  
ため、当センターでは従来の考古  
学的研究に加えて、金沢大学の覚  
張隆史助教らと共同で古墳人骨の  
ゲノム（DNAの全遺伝情報）解析  
を進めており、その試みを紹介する  
コーナーを設けました。研究成果に  
ついては「古墳人骨研究プロジェクト  
（仮）」として当センターHPで随時  
公開していく予定です。



金沢大学・古代ゲノム解析専用クリーンルーム  
内でのサンプリング風景（覚張隆史氏提供）

## 新指定・県有形文化財（考古資料）

令和5（2023）年11月17日（金）、  
県文化財保護審議会で阿尾島田A1  
号墳・朝日長山古墳・加納南9号墳  
出土品が県有形文化財（考古資料）  
として指定答申されました。これら  
新指定品も展示していますので、ぜ  
ひご来場下さい。（朝田 亜紀子）



新たに県有形文化財に指定された  
氷見市の加納南9号墳出土品

# 邪馬台国時代から古墳時代へ —激動の3世紀の畿内と北陸—

とっておき埋文講座②

大阪府立弥生文化博物館館長 禰宜田 佳男

## はじめに

### 今、前方後円墳成立に関して何が問題となっているのか？

従来は、大和の弥生社会が先進的で、その延長線上で前方後円墳が出現したというのが定説でした。ところが、高度成長期やバブル期に多くの開発が行われ、それに伴って大阪府や奈良県などで発掘調査は進んだのですが、大和の集落からは生産力を発展させる上で重要だと考えられてきた鉄器がなかなか出てきません。北陸では立派な墳丘墓がありますが、大和の墳墓は巨大化しないし副葬品もありません。そんな考古学的状況で、大和が先進的といえるのかどうか、問われているのです。

ですから、近年では、前方後円墳は大和主導で成立したのではなく、大和が政治的な空白地であったがために大和の地が選ばれたのだという考え方が支持されています。まず、このことを確認しておきます。

さて、おおまかな年代ですが、タイトルにある邪馬台国の時代というのは3世紀の前半、弥生時代終末期になり、それを経て古墳時代です。著名な遺跡として、畿内では大阪府池上・曾根遺跡がありますが、これは紀元前1世紀が盛期です。奈良県唐古・鍵遺跡は2世紀まで続きます。九州の佐賀県吉野ヶ里遺跡は邪馬台国時代よりも古い2世紀まで、福岡県の須玖遺跡群、三雲・井原遺跡群もその時期までです。奈良県纏向遺跡が、ちょうど邪馬台国時代の3世紀に出現します。

次に北陸から山陰にかけてのお墓について確認しておきます。図1で青い印のものが四隅突出型の墳丘墓、赤いのは四隅突出ではない墳丘墓です。四隅突出墓は、島根県から一番北端が杉谷墳墓群あるいは富崎墳墓群のある富山です。そのなかで、丹後には四隅突出型の墳丘墓がありません。日本海側といっても、一つではありませんでした。



図1 山陰から北陸の主要弥生墳墓 ●四隅突出型墳丘墓

そして、越中とか越前は越の国と言われていますが、西と東で地域差がありそうです。四隅突出型の墳丘墓は、西越では弥生時代終末期(古墳時代早期前半と言う方もいますが)で作られなくなりますが、東越の富山では古墳時代早期後半まで作られます。東西で違いがあります。この弥生時代終末期、古墳時代早期前半という時期が、3世紀まさに邪馬台国時代です。

## 紀元前2世紀～1世紀の畿内弥生社会

紀元前2世紀～1世紀までの弥生時代中期後半から後期前半、畿内はどうだったのでしょうか。弥生時代中期後半、畿内の一般的な集落というのは5万㎡を超すような大規模な集落の周りに濠をめぐる環濠集落を拠点として、その周りに少し小さい集落が衛星的に付随し、一つのグループを構築していました。拠点集落というのは、物資流通の中心でもありました。ところが、後期まで続かなかったのです。これ、一つのポイントです。

池上曾根遺跡、規模は約7万㎡といわれています。真ん中あたりに大型の掘立柱建物があって、そばに直径2mを超えるクスノキで作られた井戸があります。これらは祭祀的な役割を果たしていたと考えられています。先ほど

も話しましたが、前期に集落が成立して、中期後半に盛期を迎えますが、後期になると環濠がなくなります。たくさんの方が住んでいるような状況ではなくなるのです。畿内の多くの弥生集落は、こういう運命をたどるのです。

それに対して、唐古・鍵遺跡は前期に成立するのですが、後期になっても継続し、むしろ拡大するのです。中期から後期にかけて環濠が多重になっていきます。畿内の中で唐古・鍵遺跡は非常に特別な集落だと考えられます。出土品では、中国の楼閣すなわち物見櫓を描いたのではないかとという絵画土器があります。また、「褐鉄鉞容器」というものも出土しています。良質の粘土が土中にあると、自然現象でその周りに鉄分が付着するのです。空洞になっている部分に本来は粘土がありました。その粘土は、中国では不老長寿の仙薬だと考えられました。当時の人々が食していたかわかりませんが、その空洞の中には勾玉が入っていました。考古学的に証明はできませんが、神仙思想を唐古・鍵遺跡の人は知っていた可能性があるのです。中国風の建物、褐鉄鉞容器などから中国思想が入ってきたのかもしれない。銅鐸生産の痕跡もあります。建物は池上曾根遺跡と同じような大型掘立柱建物も2箇所で見出しています。

次はお墓です。富山県で一辺5mか

ら10m程度の方形周溝墓が出ていますが、実は、方形周溝墓という墓制は畿内で成立したと考えられています。埋葬施設は木棺が多く、副葬品はありません。周りを溝で巡らせて、掘削した土を中央部分に盛土して埋葬するという葬制です。この方形周溝墓は群集するというのが一般的な在り方です。

これに対して大阪府の加美遺跡Y1号墓では頂部だけで21m×10m、裾までいくと40m×30m近くなるような、超巨大な方形周溝墓が単独で存在していました。一般的な方形周溝墓の在り方とは違う特徴のものが出てきているのです。埋葬施設は23基あり、5号主体部という木棺の外側に木組みで別の空間を作る木槨という特殊な埋葬構造をもつものが中心主体でしたが、14号主体部では人骨が出てきており、右腕にブレスレットを着装していたことがわかりました。

兵庫県の田能遺跡。復元すると一辺で約20mの大型方形周溝墓ですが、やはり周辺に同じ時期の方形周溝墓はありませんでした。埋葬施設は2基ありますが、第16号墓からは632個の管玉が、第17号墓からは腕に青銅のブレスレットが装着された状態で出てきました。普通の被葬者とは違う人が埋葬されたと想像できます。このように畿内も紀元前1世紀には一部に有力者がいたようです。

ところが1世紀になると、多くの大規模な環濠集落は解体するか縮小します。繰り返しになりますが、唐古・鍵遺跡は継続するので例外的存在ということになります。

これまで、なぜ大規模な環濠集落が解体、衰退するのか色々議論がありました。従来は、社会的な変化があって解体したのではないか、あるいは中期から後期というのは中国では前漢から後漢への移行期という大きな時代の転換期ですので、その余波が九州だけでなく、畿内にも及んだのではないかなど考えられていました。

ところが最近注目されている考え方というのは、環境の悪化です。酸素同位体分析の研究が進み、1年毎に雨の量が分かってきました。水田稲作がうまくできなくなり、大規模な集落を維

持できなくなり、小集落に分散するという考え方が出てきています。

大規模な集落が営まれることがなくなり、方形周溝墓の数も激減します。紹介したような着装品をもつ、大きな墳丘をもつ墓をつくる余裕もなくなったようです。ですが、大きな銅鐸は作られます。見る銅鐸です。但し、銅鐸がお墓に副葬されることはありませんでした。畿内では副葬の風習がありませんでした。あるいは青銅器や鉄器は個人の所有物ではない社会だったといえます。

## 紀元1・2世紀の北陸弥生社会

北陸の話の前に丹後について触れておきます。丹後は日本海側において、四隅突出型墳丘墓を受け入れませんでした。また、北陸を含めた西日本の中で、後期初頭から鉄製品の副葬が始まりました。

三坂神社古墳群は、丘陵の斜面を階段状にカットして、平坦面に盛土をせず木棺墓を作っています。39基の埋葬施設のうち、24基に副葬がありました。そのうち墓穴が大きい3号墓の10号木棺墓からは頭飾り、垂れ飾り、ヤリガンナ、素環頭鉄刀や鉄鏃が出土し、頭の部分には朱が撒かれていました。黒塗りの儀仗も副葬されていました。儀仗のような権威のシンボルを、被葬者あるいは後継者が自由にすることができたということがわかります。

大風呂南墳墓、これも丹後に所在しています。台状墓で、規模は21~27m×18mと大きな墳丘を持ちます。副葬品は鉄剣、頭の辺りには銅釧、胸の辺りからはガラス製のブレスレットが出ています。このブレスレットは中国製といわれていて、ライトブルーの透明度の高い非常に綺麗なものです。直径が9.7cmと小さいので、着装ではなく、



大風呂南墳墓 ガラス製ブレスレット

遺骸の上に置かれていたのかもしれませんが。

後期後半になると福井県域、その後、出雲やほかの北陸でも鉄製品の副葬が始まります。福井県の小羽山30号墓は、北陸で最初の四隅突出型墳丘墓です。副葬品は短剣やガラス製管玉などが出土しています。

石川県域や富山県域にも少し遅れて四隅突出型の墳丘墓が出現します。富崎3号墓は富山最古の四隅突出型墳丘墓で、その後が杉谷4号墓です。山陰の方から墓造りの風習が伝わってきたのですが、山陰そのままではなく、個性がありました。島根県西谷3号墓には、墳丘に貼石があります。貼石があるというのが山陰の特徴です。それに対し、富山の杉谷4号墓には石がありません。貼石の有無で、同じ四隅突出型墳丘墓といっても地域差がありました。西谷3号墓の埋葬施設からは、鉄製武器やガラス玉、管玉などが出土しましたが、北陸では鉄製の武器副葬が顕著な特徴です。



西谷3号墓

いずれにしても鉄器の供給において、日本海は大動脈としての役割を果たしました。瀬戸内海側よりも盛んに機能していました。北陸は北陸の、日本海側は日本海側の首長間のネットワークが構築されていたのだということを確認しておきたいと思います。

このような後期後半、2世紀はどういう社会だったのかというと、各地域で政治的なシンボルを作って拮抗、対峙していました。図2にあるように、北部九州は銅矛、山陰は四隅突出型の墳丘墓、吉備は特殊器台、丹後は鉄製武器等の副葬、畿内は近畿式銅鐸、東海は三遠式銅鐸です。ところが2世紀でも後半になると、後漢が衰退します。後漢と政治的な関係を結んでいた北部九州社会が、後ろ盾がなくなったことでバランスが崩れ、『魏志倭人伝』にも

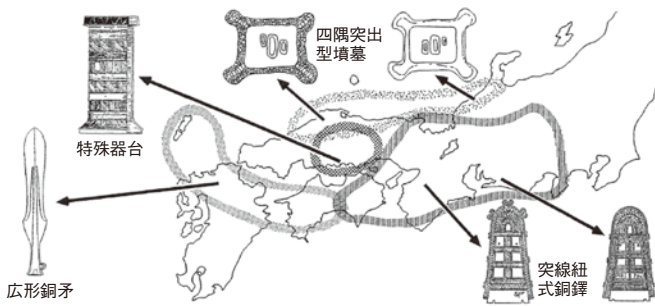


図2 地域首長連合のシンボル

あるように倭国乱となり、卑弥呼が共立されることになりました。

これまで大和主導が通説的だったのは、農業経営の基盤が安定していることが要因と考えられてきました。倭国乱を経て、鉄の流通の中心も九州から大和の方に移ったと考えられてきたのです。しかし大和主導を否定する立場からは、考古学的な根拠がない理論上の考え方であると、寺沢薫さんは述べています。九州の糸島半島に存在していた勢力が大和へ移ったとか、吉備の勢力が移ったといった考え方があるのです。

### 3世紀(邪馬台国時代)の畿内と北陸の弥生社会

弥生時代後期前半から後期後半、終末期、1世紀～3世紀にかけて、丹後ではたくさんの鉄器がお墓に副葬されていました。ところが3世紀になると丹後だけではなく、福井、石川、富山でも鉄器の副葬が多くなりました。鉄剣の出土量は、3世紀に丹後と福井で逆転します。3世紀に最も輝いていた、一定の政治的な成長が認められた地域というのは、越だったということが言えます。

福井県原目山墳墓群は丘陵上に墓が作られ、3つの埋葬施設には、鉄刀や鉄剣など北陸随一の量を誇る鉄製武器が副葬されました。乃木山墳丘墓は3つの埋葬施設があり、素環頭鉄剣など、たくさんの鉄製武器が副葬されていました。富山の杉谷墳墓群や富崎墳墓群は埋葬施設を掘っていないので、今のところ副葬品はわかりません。

3世紀、前方後円墳の相形が出現していた邪馬台国時代、北陸の集落では石川県七尾市の万行遺跡で、大規模な総柱掘立柱建物が整然とした形で並

んで出ています。その大きさは、畿内で大規模といわれている纏向遺跡や、首長居館と想定される京都府中海道遺跡で確認されているものより大きいのです。万

行遺跡は3世紀の日本列島の中で、突出して大規模な掘立柱建物だということです。こうした建物が作られた背景には畿内の政治勢力が関与したのではないかと、あるいは北陸の政治勢力が関与したのではないかとという考え方があります。現状では、両方の可能性があり得ると思います。

3世紀になると畿内でも、ようやく副葬品を持つような大規模な墳丘墓が出現しました。纏向石塚墳墓(古墳)や、ホケノ山墳墓(古墳)です。これが古墳なのか弥生墳丘墓かについては議論があります。

ホケノ山墳墓(古墳)は墳長が80mを超えるような前方後円形のお墓で、埋葬施設は石で囲った中に木槨があったとされ、画文帯神獸鏡のような中国鏡もようやく出土するようになります。

集落では、纏向遺跡が弥生時代の遺跡がない場所に、3世紀になって突如として出現します。箸墓古墳など初期の大型前方後円墳が出現する直前に、大規模集落がでてくるのです。遺構としては3棟の建物が並んで確認されています。それらは、畿内にルーツのある建物と、九州にルーツの建物があります。東と西の要素をうまく合わせた様相を呈しています。一番大きい建物から桃の種が3千個以上でていて、邪馬台国大和説の人は、これを卑弥呼の鬼道と結びつけて考えていたりします。

その後3世紀後半になって、定型化した前方後円墳が出現します。奈良県の箸墓古墳は、突出した規模をもつ出現期の古墳で、大和政権の誕生と発展過程及び当時の社会状況を知る上で重要な古墳です。大陸との交渉ルートは、これまで日本海を大動脈として九州の首長と北陸の首長が連携を図りながら一大勢力を築いていましたが、この時期に大和政権ができることによって瀬

戸内海に一本化したようです。北陸では鏡などの副葬は続きますが、大きな前方後円墳は造られなくなりました。北陸において、首長の衰退が3世紀から4世紀にかけてあったのではないかとされています。

### 大和の弥生時代を再評価する

改めて唐古・鍵遺跡を見てみると、集落の継続性、後期になっても大土木工事を指揮する指導者が存在していたことを物語ります。銅鐸はありましたが、墓に持ち込まないということは、共同体の規制が強い社会であり、モノの私有を認めない社会、個人の突出を抑える社会であったことが考えられます。

九州では紀元前1世紀、伊都国王墓とされる三雲南小路遺跡では前漢鏡をはじめ副葬品が多数発見されました。突出した首長が存在したとされています。近年、『弥生国家論』という本が出され、九州では弥生時代前期の終わり頃から非常に階層化した社会が出来上がっていたと想定されています。但し、一代限りでした。世襲がなかったのです。これは、「安定」した社会ではなかったことが考えられます。フランスの民族学者であるクラストルは、社会は簡単に階層化、国家形成に向かうことはなかったと言っていますが、興味深い指摘です。

中国鏡や鉄製武器などの威信財がなかった大和には、二つの評価ができます。そういうものを必要としなかった社会だったという評価、欲しかったけれども入手できなかった社会だったという評価です。私は前者で威信財を必要としなかったと考えています。政治的に空白地に見える社会を、あえて選択したと考えているのです。

私は古墳出現にあたり、大和が弥生時代を通して先進的だったのではなく、だからと言って大和が排除されたのではない形で、大和も古墳成立に参画したということを考えています。検討する余地は、十分にあると考えています。(平成5年10月15日)

第3回 県民考古学講座

## とやま埋文友の会

当センターでは、展示及び普及事業に積極的に参加し、郷土の歴史や文化財への理解を深めていただくとともに、会員相互の親睦と交流を図っていただくことを目的に「埋文友の会」を設立し、平成16年4月から活動を行ってきました。会員の募集は毎年3月から行っていますので、興味のある方、考古学や歴史の知識を広めたい方、奮ってご入会ください。お待ちしております。

### 活動

- ① 会報「友の会ニュース」の発行
- ② 遺跡探訪バスツアー〈日帰り〉(参加費別途)の実施
- ③ 展示解説会の開催
- ④ 冬のじっくり講座の開催

この4つは会員限定です!

### 特典

- ① 当センター発行の  
展示図録・所報「埋文とやま」が届きます
- ② 当センターが行う展示の案内が届きます
- ③ 当センターが行う県民考古学講座の案内が届きます
- ④ その他県内外の考古学情報などが届きます

### 会費

年1,000円 (年度途中の入会でも会費は同額となります)

### 会員の期間

4月1日もしくは入会した日から、翌年3月末まで

### お問合せ

富山県埋蔵文化財センター 友の会担当まで



遺跡探訪バスツアー  
令和5年11月4日(土) 開催



冬のじっくり講座のようす  
令和5年2月4日(土) 開催

考古学の研究者を目指してみたい!! 日本の歴史をもっと深く理解してみたい!!

考古学の博物館  
富山県埋蔵文化財センター

本物の土器や石器に触れてみたい!!

Archaeological Youth Club

# 考古学少年団 団員募集中!



第6回考古学少年団のようす  
令和5年11月19日(日) 開催

考古学を学んでみたい方、日本の歴史を深く理解したい方、本物の土器や石器に触れてみたい方は、「考古学少年団」の団員になってみませんか。

**団員は随時募集しており、応募のしめ切りはありません。**

興味のある方は、お気軽に当センターへお問い合わせください。

- 団員資格 県内の小学6年生～中学3年生(義務教育学校6～9年生)
- 団員の期間 入団の日から中学校卒業まで  
※毎年3月に継続の確認をします。いつでも入団可能です。
- 活動場所 富山県埋蔵文化財センター ほか
- 活動の回数 年間10回(月1回)程度  
※主に日曜日(土曜日・祝日の場合もあります)の午前または午後2～3時間程度。毎回参加しなくてもOK。  
※くわしい活動の場所・時間・内容は、手紙でお知らせします。
- 団員手帳 入団した方には団員手帳を発行します。
- 費用 入団費・会費ほか、**すべて無料**
- 保険 当センターでレクリエーション保険に加入します。

《申し込み方法》当センターのホームページから、申込用紙をダウンロードして郵送してください。

# 古写真発掘!—《19》



## さくらだに 桜谷古墳群

昭和52年（1977年）撮影

高岡市太田

桜谷古墳群は、富山湾を臨む高岡市太田にある古墳群です。この内の2基は、「桜谷古墳」として昭和9年にすでに国の史跡に指定されていましたが、昭和49年に現在の国道415号線の建設が本格的に始まり、昭和51・52（1976・1977）年に道路敷にかかる古墳群の発掘調査が行われました。

調査の結果、指定史跡である1号墳の周溝の一部や円墳・箱式石棺等が、遺物では土器や鉄製品のほかに、13号墳から直径3.3cmもあるひときわ大きな金環が見つかりました。

上の写真は、昭和52年の発掘調査の様子です。右側の高まりが国指定史跡の1号墳で、発掘調査区の北端に周溝が少しかかっている様子がわかります。また、プレハブの向こうには、先に工事が進んだ道路が迫っています。下の写真は調査区の全景で、上方には富山湾から能登半島が見えます。

桜谷古墳群からの出土品の一部を今回の特別展「黄泉つ国から—富山の古墳時代—」で展示しています。展示期間は、令和6年1月25日までです。ぜひ、この機会に県内各地の古墳から出土した数々の考古資料をご観覧ください。



桜谷13号墳出土の金環

### 編集後記

先日、愛知県に行ってきました。富山での出発時には曇りでしたが、向こうは晴れ。すっかり安心して天気予報を見ず、傘をコインロッカーに預けて遺跡見学へ出発すると雨が…。「弁当忘れても傘忘れるな」の言葉を改めて心に刻みました。（担当 青山）

### 富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.165

令和5年12月27日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814  
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

